

巻頭言

看護学研究紀要の第3巻の刊行にあたって

足利工業大学副学長 莊 司 和 男

足利工業大学看護実践教育研究センター“看護学研究紀要”の第3巻がここに刊行されることになりました。

本学看護学部はご承知のとおり、平成26年4月より、3年制の足利短期大学看護学部が、4年制の看護学部として足利工業大学に併設され、本年3月をもって満1年となりました。準備期間を含めてこの間、看護学部に関わられた教職員の皆様には、学生の教育は勿論のこと、大学の管理、運営に大変なご尽力を賜り、素晴らしい看護学部として頂きました。

また教職員の皆様は、この1年余り、大変ご多忙の中、それぞれの分野において、大学の教育者、研究者として着実に基礎的、応用的研究に成果を上げられています。本“看護学研究紀要”は、それらの研究成果を収載した刊行物であり、投稿された皆様のこれまでのご努力に感謝申し上げます。

ところで、我が国においては、高齢社会の到来、国民の健康意識の高まりに伴って、メタボリックシンドロームを予防・改善するための特定健康診査・特定保健指導を実施するなどの医療政策が展開されております。また、医療の高度化、専門化、情報化などにより、看護に求められるものも大きく変わりつつあります。具体的には、慣れ親しんだ自宅で看護師や介護士からの在宅介護サービスを受けながら、人生の円熟期を過ごせるようにする老年看護の役割がますます重要になると考えられます。つまり、入院治療や入所による看護・介護ではなく、地域の中で、看護師、保健師、介護士そして医師など、さまざまな医療専門職が老年者を支えていく地域医療が重要になります。

本学看護学部は、建学の理念である「和」の精神を理解し、調和の精神と看護専門職としての倫理観を持ち、地方都市での前記のような医療・看護に携わる有能な人材を育成することを使命として設立されました。そして本学部の大きな特徴としては、工業大学に併設されたことが挙げられます。看護学部が開設されて1年余りという現在、まだ看工連携の実績は上がっていませんが、工学部との協働は重要なキーワードであり、本学法人も含めてその環境づくりを模索・検討しているところです。今後、看工連携の研究成果が本紀要の紙面を賑わすことを期待いたします。なお、看護学部の教育・研究を公開することは、地域社会に貢献する上で非常に重要であり、一層の努力の上優れた論文の投稿を期待いたします。

最後に、“看護学研究紀要”第3巻の刊行にご尽力頂いた諸先生方ならびに図書課の皆様に感謝いたします。